

しらすぎ・無所属クラブ



命を守るためにより細やかに
コロナ対策を講じていこう

江口 友子 議員

コロナ禍を踏まえた
市民病院のあり方を

市民病院の職員定数を123人増やす条例改正が提案された。一度に定数を増やす背景を伺う。

副病院長兼事務局長 働き方改革に対応した地域医療と、市民の命を守る病院に必要な人数を設定した。

問 単に定数の箱を大きくするだけでなく前倒しをして大規模な採用を行えば、現場の負担軽減にもなり医療従事者がコロナに罹患した際の機能低下のリスクも抑えられるのではないかと。

副病院長兼事務局長 医業収益と給与費のバランスがとれる採用計画を立て、優秀な人材確保に努める。

問 コロナ禍を踏まえて将来構想を策定し直すべきではないか。

副病院長兼事務局長 コロナが収束して経営状態を予測できる状況になった時点で考えたい。

日曜日に市役所の
相談窓口開設を

生活に困窮する市民から「日曜しか仕事が休めず市役所に行けない」という声を聞く。コロナ禍の生活困窮対策として、日曜日や年末年始に臨時相談窓口

を開設すべきではないか。福祉部長 先行事例として相模原市と横須賀市の状況を確認した。現在、本市としての取り組みを検討している状況である。

(株)DHCとの
連携協定の解消を

DHC社の会長が自社公式サイトで差別発言を掲載しこれを削除した。連携協定を締結している本市に對しての謝罪や、撤回理由の説明などはあったのか。

市長 企業のホームページへ公式見解の掲載を求めたが掲載されていない。

問 市長記者会見では、記事が削除されれば連携協定の解除はしない旨の発言があったが、この方針が変わりはないか。

市長 本市からは、経緯の説明、社会的に混乱を招いたことへの見解、根本的な再発防止の取り組みなどについて、ホームページ上に企業としての公式見解を示すよう求めたが、企業側から対応が難しい旨の公式回答があり、協定解除に向けた手続きを進めている。

車椅子が通れない
文化芸術ホールへの
新設道路は直して

平塚文化芸術ホールの建設などに伴い整備された見附町6号道路(新しくできた店舗と、崇善公民館・市民活動センターとの間の道)には歩道がない。整備計画に歩道の設置を求める必要はなかったのか。

都市整備部長 歩行者などの安心・安全に配慮するよう整備方針へ明記してあり

歩道状況の設置が事業者から提案された。現状では電柱が歩道状況内にあり、車椅子利用者が通行できるような幅員確保の検討を事業者に依頼している。

問 実地調査の際に、市肢体障害者福祉協会副会長の岡山雅一氏からは、「定期借地で民間業者に貸す土地に設置されている当該歩道が法的には正式な歩道ではないとしても、現に不特定多数の人が通行できる形で設置されている以上、安全性に十分配慮した形で設置するよう指導監督する責任が市にはあるのではないか」という意見をもらった。改善の必要性についての見解を伺う。

市長 課題をしっかりと捉えて対処できるようにしていきたい。



電柱が邪魔して通れない(市内見附町)

小学校の「困った」を改善へ
連絡手段デジタル化



渡部 亮 議員

子供が休むとき、連絡帳を近所の友達に渡すというのは面倒で前時代的である。欠席連絡や配付物をデジタル化できないか。

教育指導担当部長 欠席連絡は今年度中にオンラインで自動化する。配付物をデジタル化するメリットも把握しており、学校と連携を図りながら、今年度後半の導入を目指す。

給食開始の早期化

1年生の給食開始を2

県内ワースト3位である。改修工事の予定が当面先の学校に、簡易改修による便器の洋式化や床の乾式化などを進められないか。

学校教育部長 大規模改修に加え、国の補助金を活用し、トイレに特化した改修工事を進めているが、費用と時間が掛かることは認識している。簡易改修は今後の検討課題と考えている。

一部の小学校で体操服の下での肌着用を禁止する指導が行われていた。今年度も1年生が肌着用を脱ぐよう指導され、嫌な思いをしたと保護者から相談を受けた。なぜそのような指導があったのか。

教育指導担当部長 汗をかいた後に着替える肌着がない場合の、衛生面・健康面を考慮した指導であると考えられる。

問 無理に脱がせず、肌着の着用の仕方は自由を選ばせてもらえないか。

教育指導担当部長 学校には社会通念上合理的かどうか、児童や保護者の意見が

市内在6か所のバス停が危険度Bに指定されたが、改善の状況を伺う。

交通政策担当部長 バス事業者へ確認したところ、横断歩道や交差点から離れた場所への移設を検討している

トイレの洋式化加速
本市の公立小中学校のトイレ洋式化率は約47%

尊重されているかなどの点検や見直しを求め、保護者や子供には事前に指導方針を伝えておく必要があると感じている。

湘南海岸公園
龍城ヶ丘ゾーン整備

神奈川県から、今と同以上の飛砂防備機能を求める意見があったとのことだが、塩害・風害についてはどうか。

都市整備部長 塩害・風害については考慮してほしいという話があった。

問 市民有志が行った塩害・風害調査によると、住宅地への影響が懸念される。市も住宅地への影響を調査すべきではないか。

都市整備部長 飛砂については住宅地での調査はしていないが、計画地での調査をしている。風についてはシミュレーション上では問題ないので、整備後も大きな変化はないのではないかと考えている。飛砂の調査結果が出てから考えたい。

このほかの質問 未利用地の活用における公平性・透明性の確保 がん検診



危険、不便なバス停を解消、
安全なバス停を

府川 勝 議員

市内6か所のバス停が危険度Bに指定されたが、改善の状況を伺う。

交通政策担当部長 バス事業者へ確認したところ、横断歩道や交差点から離れた場所への移設を検討している

と連携を図っていく。
「ヤングケアラー」を助けて

ヤングケアラーと呼ばれる、家族の世話や介護に多くの時間を費やしている子供たちを助けるために、本市ではどのような取り組みを行うのか。

健康・こども部長 国がプロジェクトチームを立ち上げ提言が示されたが、具体的な指示は受けていない。

問 市内のすべての中学生に調査をしてはどうか。

健康・こども部長 県や政令市の実態把握の手法や時期なども踏まえ、今後の検討課題としていきたい。

福祉部に専門家や担当者配置してどうか。

健康・こども部長 現行の相談体制を活用しながら、国の方針も注視し、支援体制を充実させる取り組みを検討していく。

問 市が助成して、視覚障がい者のグループホームを増やすことはできないか。

福祉部長 整備に関する手続きなどの情報提供や、事業者からの相談に応じている。設置に関する補助も実施し、支援に努めている。

問 本市の視覚障がい者グループホームには65歳以上の人は入居できないと聞いたが、実際には横浜市から紹介されて入居している人がいる。入居に関する特別な条件があるのか。

福祉部長 電線管理者から新たな電柱設置に向けた協議を受けた際は、用地確保や技術上の制約がある場合以外は、道路への設置を認めていない。

問 市道の電線地中化計画についての考えを伺う。

土木部長 平塚市道路中期ビジョンにおいて、災害対応力の強化として、緊急輸送道路や安心・安全な歩行空間の確保のため、無電柱化を位置づけている。また、良好な都市景観の形成に寄与することから、新しいまちづくりの際には無電柱化を推進している。

問 電柱を増やさないための条例制定なども考えられるが見解を伺う。

土木部長 電線管理者から新たな電柱設置に向けた協議を受けた際は、用地確保や技術上の制約がある場合以外は、道路への設置を認めていない。

しらすぎ・無所属クラブ 所 属 議 員
端 文昭 議員 金子 修一 議員 白井 照人 議員